第２６回　花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール

受賞者の業績概要

平成２９年３月

一般財団法人日本花普及センター

第２６回花の国づくり共励会
花き技術・経営コンクール

表　　彰　　式

平成２９年３月１５日（水）１３：３０～
学士会館
東京都千代田区神田錦町３－２８

表　彰　式　次　第

１　開会あいさつ

２　審査講評
審査委員長　日本大学生物資源科学部　教授　腰岡政二

３　賞状授与

農林水産大臣賞	２点
農林水産省生産局長賞	３点
一般財団法人日本花普及センター会長賞	１点

４　祝　辞

５　記念撮影

６　懇談会
表彰式と記念写真撮影の終了後、出席者による懇談会を開催

第２６回花の国づくり共励会
花き技術・経営コンクール　受賞者一覧表

【農林水産大臣賞】

曽田　義則（そだ　よしのり）
鉢物（サボテン類、アロエ、エケベリア、カランコエ、クラッスラ、セダム、
ハオルチア、ユーフォルビア等）
愛知県豊川市

坂本　和盛（さかもと　かずもり）
鉢物（シクラメン、アジサイ、バラ）
福岡県久留米市

【農林水産省生産局長賞】

篠　太一（しの　たいち）
鉢物・苗（ポインセチア、マリーゴールド、インパチェンス、ノースポール）
埼玉県入間市

白木　裕人（しらき　ひろひと）
鉢物・苗（ヤブコウジ、ブルーベリー等）
岐阜県揖斐郡大野町

五蘭塾（ごらんじゅく）（代表　中川　圭太）
切り花・鉢物（オンシジュウム、ファレノプシス、エピデンドラム、デンファレ等）
熊本県宇城市

【一般財団法人日本花普及センター会長賞】

丸田　浩行（まるた　ひろゆき）
切り花（キ　ク）
長崎県佐世保市

第２６回花の国づくり共励会　花き技術・経営コンクール

審　査　講　評

第２６回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール受賞者の皆様方には心からお祝いを申し上げます。花き技術・経営コンクールは、花の国づくり都道府県協議会などより推薦がありました経営体について、６名の審査委員により、提出された書類に基づく第１次審査と、現地での第２次審査を通して厳正に行われました。その結果、本共励会の最高賞である農林水産大臣賞には、次の２経営体が選ばれました。

愛知県豊川市の曽田義則氏は、鉢物生産経営を営んでいます。昭和４１年に就農し、父親のサボテン栽培を引き継ぐとともに「金のなる木」やアロエを順次導入し規模を拡大してきました。昭和４５年にはサボテンの輸出を手掛けたこともあります。経営方針は、先ず、新商品を開発し､商品化の目途が立ち有力商品となった後に規模拡大をするというスタイルで、現在では、１４棟にまで温室を拡張し、２７種の植物と６６種の商品を出荷しています。

栽培面では、新品種の育成に取り組み、シャコバサボテンとクジャクサボテンの交配から「ドレミファパープル」を品種登録しました。その後、アロエやセダムなどで新品種を育成・登録し、オリジナル品種をＰＲしています。

雇用面では、数ある栽培施設ごとに担当者を置き、責任を明確にしています。また、出荷作業を効率的に行えるように、トラックが駐車しやすい出荷場の建設やオリジナル台車の作成などで、商品の移動や積み込みなどに工夫を凝らし、労働負担軽減に努めています。

環境面では、加温が必要な植物を１棟の加温施設に入れて管理し、残りの１３棟は無加温とすることで、省エネルギー栽培を実践しています。また、多肉植物の挿し木や播種については、施設内に温湯管を通したトンネルハウスを作ることで、低コスト生産を実施しています。

出荷・販売面では、意表をついた商品名を考え、鉢に付けるラベルも商品名をＰＲするカラフルなものにするなど、販売力を向上させる取り組みから、自園のブランド化に成功しています。

このように、鉢物生産経営において、創意工夫により安定した生産・販売を維持していること、環境に配慮した生産を実施していること、過去３年間において出荷数量、経営収支ともに安定していること、地域の花き生産振興に寄与していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞にふさわしい花き生産の模範となる経営体であると判断されました。

福岡県久留米市の坂本和盛氏は、鉢物生産経営を営んでいます。２年間の農業研修を受けた後、昭和６０年に就農し、シクラメンの栽培を開始しました。安定した生産基盤を目指した気象災害に強い施設の導入と規模拡大に取り組み、現在では、シクラメン、アジサイ、バラ鉢物の生産を行っています。

栽培面では、田主丸シクラメン研究会で試験を重ね、Ｃ型鋼による底面給水栽培技術の確立や光量管理などによりコンパクトな株を作り出しています。一方、アジサイについては、

安定した苗質を確保するために、挿し木時期の前進化や2回摘心育苗などの工夫による苗づくりを実践しています。

労働管理面では、カーテンや天窓の開閉、灌水等施設管理の自動化、シクラメン播種作業の外注化により省力化と高品質化を両立させるとともに、従業員育成のための環境整備や女性力を発揮できるような工夫をしています。

環境面では、ヒートポンプの導入により重油ボイラーの稼働時間を減らすことで省エネルギーに配慮しています。また、施設では、二重張りや三重張りによる保温効率の向上や、循環扇利用による施設内の温度ムラを無くすことで省エネルギーに繋げています。シクラメンを除いて、資材や用土を蒸気消毒することで再利用し、環境保全にも寄与しています。

出荷・販売面では、消費者の多様なニーズに対応するためにシクラメン、アジサイでそれぞれ約８０品種、鉢物バラでも20品種以上を取り扱っており、自身でも種苗登録を行うなどバリエーションを増やしています。

また、県農業大学校からの研修生の受け入れなどで若手生産者の育成にも尽力しています。

このように、鉢物生産経営において、創意工夫により安定した生産・販売を維持していること、環境に配慮した生産を実施していること、過去３年間において出荷数量、経営収支ともに安定していること、地域の花き生産振興に寄与していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞にふさわしい花き生産の模範となる経営体であると判断されました。

農林水産省生産局長賞に選ばれました次の３経営体は、農林水産大臣賞に選ばれました経営体に収益性、あるいは、経営の安定性の上で僅かに及ばないものの、以下に述べる点で高く評価されました。

埼玉県入間市の篠太一氏は、鉢物・苗生産の複合経営を営んでいます。１年間の花き生産に関する研修を経て昭和３８年に就農し、シクラメン鉢物生産を開始しました。昭和４９年、鉢物用のポインセチア品種が日本に導入されると同時にアメリカ・ポールエッケ社と技術供与契約を締結し、ポインセチア生産を開始しました。栽培面では、枝折れしないポインセチを生産するために、出荷用の鉢に複数の苗を直挿してピンチしない「シングルステム仕立て」とし、流通段階での弱点である枝折れの発生がないしっかりした商品に仕上げています。また、自動かん水システムの導入、人工培土の利用および適期作業を行うことで、計画生産を実現しています。労働面では、フォークリフトと台車を活用することによる労力の軽減と労働時間の短縮や女性が働きやすい労働環境を整備することで、長期にわたり安定した労力を確保しています。また、花き生産を志す研修生などの受け入れ、農業後継者育成等に貢献しています。このように、鉢物・苗生産の複合経営に安定した経営を実現し、地域農業の発展に寄与していることが評価されました。

岐阜県揖斐郡大野町の白木裕人氏は、鉢物・苗生産の複合経営を営んでいます。平成７年に就農した後の１年間をタイ国農場で研修し、タイ国における洋蘭バンダをはじめとする熱帯植物の生産技術を習得しました。帰国後は（有）白木園芸の現場管理者として勤務し平成２３年からは代表を務めています。就農当時は、洋蘭と観葉植物については、タイ農場で生産したものを輸入するリレー栽培を行っていましたが、平成２２年よりヤブコウジ、ブルーベリー等を国内で生産する体制に変更しました。栽培面では発根率の向上や他商品と異なる草姿の作出など、ひと手間の工夫とアイデアでオリジナル商品を生み出し差別化を図ってい

ます。労働面では露地でのスプリンクラー導入や施肥回数の削減、台車利用などで作業軽減に努めています。雇用面では、子育て世代の女性従業員等が働きやすいようフレックスタイムでの勤務を導入しています。環境面では、低温耐性の強い品目を選択、緩効性肥料の活用、最適な灌水量を維持するためにタイマーを設置、病害虫の早期発見、早期防除に努めています。このように、鉢物・苗生産の複合経営に安定した経営を実現し、計画的な生産出荷と商品づくりで需要に応えていることが評価されました。

中川圭太氏を塾長とする熊本県宇城市の五蘭塾は、切り花・鉢物生産の経営団体です。昭和５９年のオンシジュウム導入とともに生産者１９名からなる組織を結成し、現在では１３名の塾員で活動を行い、栽培面積７１７ａ、生産額１０億円を超える全国有数の洋ラン産地となっています。栽培面では、平成２０年にヒートポンプを導入することで周年出荷が可能になったほか、冬季暖房用燃油量の削減にも繋がりました。また、エピデンドラムやオブリザタムで新品種を作出し、市場で高い評価を得たことが安定経営に繋がっています。このほか、平成２８年から花き日持ち品質管理認証制度を取得し、切り花の鮮度・品質の管理などに取り組み、環境負荷軽減、高品質生産に繋げています。出荷・販売面では、新規格や新商品などのヒット商品を数々生み出すことや開花リストや企画商品リストを提案することなどで販売促進に繋げています。このように、切り花・鉢物生産の複合経営に安定した経営を実現し、地域内外から１７０名の雇用を創出するなど地域経済にも大きく貢献していることなどが評価されました。

一般財団法人日本花普及センター会長賞に選ばれました次の経営体は、以下に述べる点で評価され本賞に値すると判断されました。

長崎県佐世保市の丸田浩行氏は、キク切り花経営を営んでいます。昭和５５年にキク栽培に関する実践的な技術習得を開始することで就農し、その後、徐々に経営規模を拡大し今日に至っております。栽培面では、低温開花性の品種を導入することで、花芽分化期の温度設定を下げることが可能になり、また、日没後短期昇温処理を導入することなどで燃油消費量の削減を図っています。労働面では、自動換気、循環扇、自動カーテン、自動選花結束機の導入により、栽培や選花作業の大幅な省力化を図り、品質管理の徹底に労働力を集中しています。環境面では、地元の肥育農家から腐熟した堆肥を、森林リサイクルセンターよりバーク堆肥等を購入し、肥培管理の適正化により化学肥料の低減に努めています。さらに、ハウスに防虫ネット及び紫外線カットフイルムを導入するとともに、防除効果期間の長い薬剤を活用することで農薬散布回数を削減しています。このように、丸田氏は、県のトップファーマーとして花き産地の活性化に尽力しているほか、区長等地区活動のけん引役を担っていることなどが評価されました。

近年、わが国においては天候不順な状態が続いていますが、平成２８年の夏は全国的に気温が高く日照時間は多かったものの、秋は台風の上陸･接近の影響で長雨、日照不足により多くの農作物の生育不良、開花遅延などが懸念されました。そのような中で、今年度の審査会において推薦のあった多くの経営体が、栽培技術の高度化により生産効率を高めるとともに、生産コストや環境負荷の低減に努める一方、消費者ニーズに合う品目・品種の選択、オリジナル品種の育成、あるいはブランド品目の育成、新しい需要の開拓などに力を注ぎ、着実な経

営に腐心されていることに心強く感じました。

わが国の花き産業は、農業を取り巻く環境と同様に依然厳しい状況にありますが、ようやく復調の兆しが見え始めました。このような中で、花き産業の健全な発展と心豊かな国民生活の実現に向けて、今後とも一層のご尽力を賜りますようにお願いし、審査講評といたします。

平成２９年３月１５日
審査委員長
腰　岡　政　二

【農林水産大臣賞】

曽田　義則　　愛知県豊川市
鉢物（サボテン類、アロエ、エケベリア、カランコエ、クラッスラ、セダム、ハオルチア、ユーフォルビア等）

曽田義則氏は、昭和４１年に高校を卒業後就農し、父親のサボテン栽培（施設面積１５０㎡）を引き継いだ。当時、海外では、サボテンや多肉植物の一種である「金のなる木（クラッスラ）」やアロエに人気があり、サボテンから始め、「金のなる木」やアロエを順次導入し規模拡大してきた。氏の経営方針は、先ず、新商品を開発し、商品化の目途が立ち有力商品となったら規模拡大するというスタイルで、現在では、植物の種類２７種、商品数６６品を出荷している。

栽培技術で特に工夫した点は、新品種の育成に取り組み、オリジナル品種をＰＲしていることである。昭和５７年にシャコバサボテンとクジャクサボテンを交配し、その中から新葉の色が紫ピンクになるものを選抜して「ドレミファパープル」と名付け、平成７年に品種登録した。これ以降、アロエでは「ホタルの光」（品種登録：平成２１年）と「うぐいすヌーボー」（品種登録：平成２２年）、セダムでは「ビールイエローホアム」（品種登録：平成２６年）と３つの品種を育成・登録し、現在も新品種育成の取り組みを続けている。

雇用管理と労働負担の軽減では、１４棟の施設が点在していることから、施設ごとにパートの担当を置き、責任を明確にしている。また、出荷作業を効率的に行えるように、トラックが駐車しやすい道沿いに出荷場を建設したほか、出荷場を効率的に利用するために、オリジナルの台車を１４台作成し、台車のどの方向からでも商品を並べやすく、積み込みやすくなるように工夫し、労働負担軽減に努めている。環境保全や省エネルギーに対しては、多肉植物は、無加温で栽培できるものも多いため、加温が必要な植物は１棟の加温施設に入れて管理し、残りの１３棟は無加温とすることで、省エネルギー栽培を実践している。また、多肉植物の挿し木やは種についても、施設内にトンネルハウスを作って、その中に自作の温湯管を通すことにより部分的に加温し、低コスト生産を実施している。

出荷・販売についての工夫は、平成５年頃、鉢物業界では、新商品の出荷鉢をカラフルにしたり、小鉢化したりする鉢物農家が増えてきたが、鉢を変えただけでは手持ちの鉢が増えるばかりで、売れ残りの鉢は在庫になるため効率が悪いと考えた。そこで、意表をついた商品名（流通名）を独自に考え、鉢に付けるラベルも商品名をＰＲするカラフルなものにすることによって、販売力を向上させる取り組みを始めたところ、外見も名前もユニークであるとの評判が定着し、自園のブランド化に成功した。

曽田氏は、サボテンや多肉植物の趣味家の集まりにも所属し、行事に参加したり、情報交換に努めており、５年前から後継者も一緒に仕事するようになり、オンリーワンの商品を増やし、海外での販売も増やしていく予定である。

（左から　曽田　義則　曽田　美代子）
ハウスにて

ハウス入口前

金のなる木のハウス

【農林水産大臣賞】

坂本　和盛　　福岡県久留米市
鉢物（シクラメン、アジサイ、バラ）

坂本和盛氏は、県農業大学校を卒業後、三重県下で２年間研修を受け昭和６０年に就農。父の経営品目は花木であったが、需要の変遷からシクラメンの栽培を開始した。平成３年の台風１９号のためハウスが全壊したが、家族と話し合い、平成４年に新たに借り入れを行いシクラメンの生産を再開した。その後、安定した生産基盤を目指して台風等気象災害に強い施設の導入と規模拡大に取り組み、現在は、シクラメン、アジサイ、バラ鉢物の生産を行っている。

栽培技術で特に工夫した点は、田主丸シクラメン研究会で多くの試験を行い、用土の種類や配合、液肥の濃度や施肥時期等様々な工夫が生まれC型鋼による省力化のための底面給水栽培技術の確立を図ったことである。５月以降は、シクラメンにとって強光条件となるため、遮光による光量管理を行っており、時間ごとに２枚のかんれい紗を駆使し、日照に応じて細かに遮光度合いを変えることで、過酷な環境の中であってもコンパクトな株を作り出している。

また、アジサイについては、安定した苗質を確保するために、挿し木時期の前進化、２回摘心育苗などの工夫を行い、苗の樹高が高すぎない花芽の着きが良い苗づくりを実践している。

労働軽減や雇用管理については、カーテンや天窓の開閉、灌水等施設管理の自動化、シクラメンは種作業の外注化を進め省力化と高品質化を両立させるとともに、雇用を導入しやすい栽培面の工夫、熟練した従業員を育成するための環境整備、女性の力を各方面で発揮できるような工夫をしている。

環境保全や省エネルギーについては、エネルギー利用効率が高いヒートポンプをいち早く導入することで、重油ボイラーの稼働時間を約３割減らし、化石燃料の削減等省エネルギーに配慮している。また、施設は、二重張り、場所によっては三重張りを行うことで保温効率の向上に努めている。更に、循環扇を一日中稼働させることによって施設内の温度ムラを無くし省エネルギーに繋げている。

病害の発生しやすいシクラメン以外では、資材、用土を全て蒸気消毒を行って再利用をしている。この取り組みにより廃棄物の量を大きく減らし、環境保全に寄与している。出荷・販売については、消費者の多様なニーズに対応可能な品種数としてシクラメン、アジサイでそれぞれ約８０品種、鉢物バラでも２０品種以上を取り扱っており、自身でも２品種の種苗登録（１つは出願中）を行うなどバリエーションを増やしている。

坂本氏は、平成８年以降、県農業大学校の研修生の受け入れを行って若手生産者の育成に尽力しているほか、九州（西日本）シクラメン生産者協議会の役員等を務め、平成２５年に就農した後継者の新たな取り組みを応援している

（左から坂本　和盛　坂本　悦子　坂本　雄哉）
アジサイのハウスにて

バラ鉢物のハウス

シクラメンの鉢植え

【農林水産省生産局長賞】

篠　太一　　埼玉県入間市
鉢物・苗（ポインセチア、マリーゴールド、インパチェンス、ノースポール）

篠　太一氏は、高校卒業後、大学の農場で１年間花きの生産に関する研修を経て昭和３８年に就農。実家は、代々東京・中野でダイコン等を生産する野菜農家であったが、研修中に施設を建て、シクラメン鉢物の生産を開始した。
昭和４７年、交通の便の良さとまとまった土地が入手できたことから埼玉県入間市に移転し昭和４９年、鉢物用のポインセチア品種が日本に導入されると同時にこれを経営の主体に据え、本格生産を開始した。

アメリカ・ポールエッケ社と技術供与契約を締結し、日本でポインセチア生産を開始した最初の４人の中の１人であり、現在も国産苗供給の第一人者としてその品質は高く評価されており、また、国内でのポインセチアの生産振興、販売促進のために活動する生産者組織の設立に尽力し、平成２年には、日本ポインセチア協会２代目会長に就任した。

栽培技術、特に工夫した点は、第１に枝折れしないポインセチを生産するため、直挿しと「シングルステム仕立て」を行っている。出荷用の鉢に直挿しすることで育苗を省いているほか、５号以上の鉢は、複数の苗を挿してピンチしない「シングルステム仕立て」とし、流通段階での弱点である枝折れの発生がないしっかりした製品に仕上がり、高い評価を得ている。第２は、エンドユーザーまで高品質を保つため「馴らし」の徹底を図っている。ポインセチアは、冬の商品であるため、流通段階や消費者の下で低温にさらされても出荷時の品質を保てるよう出荷前の「馴らし」を十分に行っている。

このほか、自動かん水システムの導入、人工培土の利用、並びには種、ポット上げなどの作業を適期に行うことで、計画生産を実現している。

労働軽減、作業環境については、挿し木後の鉢の移動はフォークリフトと台車を活用することによる労力の軽減と労働時間の短縮、女性が働きやすい労働環境を整備、雇用管理に当たっても学校行事や子供の病気等は最優先するように日頃から雇用者に伝え、短時間勤務や休みの取得を積極的に進めており長期にわたり安定した労力を確保している。

篠氏は、日本にポインセチア鉢物を導入した先駆者として、ポールエッケ社と繁殖許諾契約を結び、全国に数軒しかない苗増殖販売農家として生産者に苗を供給しており、クリスマスの定番鉢花として定着させた数々の取り組みは、高く評価される。今後は、品種の特性やポインセチア本来の魅力を引き出すよう栽培管理技術の向上に努め、最高級の「素材」づくりを目指すことにしており、昭和６１年に設立した有限会社篠園芸には、長男と次男が経営に参画し花きに限らず地域の農業後継者育成等に貢献している。

【農林水産省生産局長賞】

白木　裕人　　岐阜県揖斐郡大野町
鉢物・苗（ヤブコウジ、ブルーベリー等）

白木裕人氏は、大学修士課程を終了後、有限会社白木園芸へ入社、１年間タイ農場に研修赴任し、タイ国における洋蘭バンダをはじめとする熱帯植物の生産技術の習得及び環境を体感した。平成８年に帰国後、同社の現場管理者として勤務し、以後、平成１４年１１月から岐阜花き流通センター農業協同組合青年部長、平成２０年８月から同農協理事を歴任、平成２３年１０月から（有）白木園芸の代表である。

就農当時の生産品目は、洋蘭（バンダ等）、観葉植物（ドラセナ類等）、植木類と多様であった。洋蘭、観葉植物は、タイ農場で生産したものを輸入し、温室で開花や順化をさせるリレー栽培を行っていた。植木類は、公共工事向けの西洋紅カナメをメインに、ゴールドクレストの地掘り鉢上げ商品を生産していた。

平成２２年より、タイ農場からの植物輸入によるリレー栽培を主体とした生産体制から全量を国内で生産する体制にシフトし、品目も洋蘭、観葉植物からヤブコウジ、ブルーベリー等へ転換、既存施設を利活用した栽培とアイデア、ひと手間の工夫でオリジナル商品を生み出している。生産品目として採用する基準としては、①低温に強いもの、②栄養系であること、③栽培技術を要するもの、④差別化を図る要素を含んでいるものとしている。

栽培技術で特に工夫した点は、例えば、作目毎に培養土、湿度管理、日射量などの条件を変えて研究し、発根率の向上に繋げたこと、また、差別化を図るために、ヤブコウジでは栽培環境を変えるなどにより、やわらかい草姿となり他社と異なる商品となるなど逆転の発想を試みている。

労働軽減では、灌水については、露地でもスプリンクラーを導入し作業の省力化に努め、緩効性肥料の利用による施肥回数の削減と効率の良い肥培管理、台車利用による荷物の積み下ろし作業を最小限にとどめている。なお、平成１３年からは、岐阜花き流通センター農協のネットワーク化により出荷伝票の合理化が図られている。雇用管理面では、子育て世代の女性従業員等が働きやすいようフレックスタイムでの勤務を導入している。また、出欠勤、就業時間においても、より働きやすいように配慮している。

環境保全や省エネルギーについては、低温耐性の強い品目を選択、緩効性肥料の活用、最適な灌水量を維持するためにタイマーを設置、病害虫の早期発見、早期防除に努めている。

白木氏は、意欲的に市場バイヤー、量販店バイヤーへの営業と商談を重ね、計画的な生産出荷と商品づくりで需要に応えており、常に新商品を企画・立案し、超ニッチな需要を独占獲得できるよう努力していきたいとしている。

【農林水産省生産局長賞】

五　蘭　塾（代表　中川　圭太）　　熊本県宇城市
切り花・鉢物（オンシジュウム、ファレノプシス、エピデンドラム、デンファレ等）

五蘭塾の所在する戸馳島は、九州本土から天草諸島に伸びる宇土半島の先端に位置する。耕地面積が狭く、大消費地からも遠隔という立地条件で高所得を実現するため洋ラン栽培に目を付け、昭和５９年オンシジュムの導入とともに「常に５年後を見通して花き農業を経営しよう」と、１９名からなる「五蘭塾」を結成し、現在１３名（うち農業法人６、個別経営体７）の塾員で活動を行っている。

発足に当たって、手作りの鉄骨育苗ハウスを建設し、共同育苗で小さな苗を半製品まで仕上げて塾員に配布を行った。また、一人の落伍者も出さないために、月１回は必ず全員参加でハウスを巡回する現地検討会を行った。これにより、お互いに刺激になり、全体の品質向上にも繋がり、現在では、栽培面積７１７ａ、生産額１０億を超える全国有数の洋ラン産地となっている。

栽培技術で特に工夫した点は、品種によって低温に数週間遭遇させることで花芽分化を形成するため、夏季冷涼な標高８００～１０００ｍの地に洋ラン株を一定期間置くことにより生育と開花促進を図った。平成２０年にヒートポンプを導入し、随時低温処理が可能になったことから周年出荷が可能になったほか、冬季暖房用燃油量の削減、周年栽培の確立により時期的な雇用から年間雇用が出来るようになり人員を安定して確保できるようになった。

新品種の育成については、エピデンドラムで「プリディーレディーミスミ」を作出し、全国洋ラン品評会で金賞を受賞したほか、オブリザタムで「スターダストフェアリーⅡ」を作出し、現在も塾内で栽培され、市場での評価が高いため安定経営に繋がっている。このほか、平成２８年から花き業界の総合認証システム「花き日持ち品質管理認証制度」を取得し、切り花の鮮度・品質の管理などに取り組み、環境負荷軽減、高品質生産に繋がっている。

出荷・販売に当たっては、物日など年３回市場との商談会を開催しており、これまで新規格や新商品などのヒット商品を数々生み出し、また、各市場のトレードフェアにも積極的に参加しては、販売高増加に努めている。このほか、開花リストや企画商品リストを提案することで販売促進に繋げており、熊本県のＰＲキャラクター「くまモン」を箱や鉢に印刷し、商品に付加価値を付けて有利販売に繋げるとともに、熊本県産農産物のＰＲにも寄与している。

五蘭塾では、資材の共同購入、製品の共同輸送によってコストの削減を図っており、個人では難しい大型量販店、大手市場への販売、価格交渉を優位に進めることが出来ている。育成した新品種は、無償で栽培することが出来ることから広く栽培され、経営安定に繋がっている。会員全体では、地域内外から１７０名の雇用を創出するなど地域経済にも大きく貢献している。

【一般財団法人日本花普及センター会長賞】

丸田　浩行　　長崎県佐世保市
切り花（キ　ク）

丸田浩行氏は、昭和５５年高校卒業と同時に就農し、キク栽培に関する実践的な技術習得を開始した。昭和５８年に施設を拡大して以降、自己資金による施設の改修、補助事業の活用による施設の導入など徐々に経営規模を拡大した。

栽培技術で特に工夫した点は、秋ギク「神馬２号」などの低温開花性の品種を導入し、花芽分化期の温度設定を下げることが可能となった。加えて、４段サーモによる変温管理を行うことで燃油消費量の削減を図っている。また、３年前より「日没後短期昇温処理（ＥＯＤ-heating）」に取り組んでおり、低温開花性系統導入と変温管理により慣行栽培と比べ約１５～２０％の燃油コスト削減に繋がっている。

労働軽減や雇用管理では、自動換気、循環扇、自動カーテン、自動選花結束機の導入により、栽培や選花作業の大幅な省力化を図り、品質管理の徹底に労働力を集中できている。また、無側枝性品種を秋ギクでは「特馬」、６～１１月は「精の一世」を導入し、芽摘み作業の省力化を図っている。作業に当たっては、始業前に家族内でミーティングを行い、作業分担を十分に行うことに加え、ほ場のエリアごとに施設管理責任者を置き、労働力、雇用労力が過不足なく順当に割り当てられるように工夫している。

環境保全や省エネルギーについては、地元の肥育農家から腐熟した堆肥を、森林リサイクルセンターよりバーク堆肥等を購入し、肥培管理の適正化により化学肥料の低減に努めている。また、すべてのハウスに防虫ネット及び紫外線カットフイルムを導入するとともに、防除効果期間の長い粒剤などを積極的に活用することで農薬散布回数を２～３割削減している。次に、電照栽培では、県内ではいち早く蛍光灯による開花調節技術へ切り替え、現在では、８．５W白色ＬＥＤ電球を導入しており、更に、ＬＥＤ電球の生育促進と開花調節効果を模索している。

出荷・販売については、これまで地元のキク出荷組織は３組織があったが、各組織ともに高齢化により出荷数量が減少し、市場からの評価を落とす一因となっていた。このため、組織の統合に取り組み、安定した出荷量の確保が可能となって市場の評価も高まり、生産意欲の向上も図られ産地の活性化に繋がっている。

丸田氏は、平成２８年からさせぼ西海菊出荷組合長に就任するなど県のトップファーマーとして花き産地の活性化に尽力しているほか、区長等地区活動のけん引役を担っている。後継者である長男は、独立して県内の他地域で就農しキク栽培を通じて地域農業の核となりつつあり、また、次男、三男も親元で営農を開始し経営に関する知識等の継承を実践していくことにしている。

（参考資料１）

花の国づくり共励会　花き技術・経営コンクール受賞者一覧

平成29年3月15日

回（年度）	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
26回（28年度）	農林水産大臣賞	愛知	曽田　義則	サボテン類、アロエ、エケベリア、カランコエ、クラッスラ、セダム、 ハオルチア、ユーフォルビア等（鉢物）	
26回（28年度）	農林水産大臣賞	福岡	坂本　和盛	シクラメン、アジサイ、バラ（鉢物）	
26回（28年度）	生産局長賞	埼玉	篠　太一	ポインセチア、マリーゴールド、インパチェンス、ノースポール（鉢物・苗物）	
26回（28年度）	生産局長賞	岐阜	白木　裕人	ヤブコウジ、ブルーベリー等（鉢物・苗物）	
26回（28年度）	生産局長賞	熊本	五蘭塾（塾長　中川圭太）	オンシジュウム、ファレノプシス、エピデンドラム、デンファレ等（切り花・鉢物）	
26回（28年度）	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	長崎	丸田　浩行	キク（切り花）	
25回（27年度）	農林水産大臣賞	埼玉	萩原　幸一	ケイトウ、ポインセチア、プリムラ、アップルゴーヤ、縄文ネギ（鉢物・花壇苗）	
25回（27年度）	農林水産大臣賞	愛知	近藤　晴義	ガーデンバラ苗、ミニツルバラ（鉢物・花苗）	
25回（27年度）	生産局長賞	福島	佐藤　幸一 佐藤　朝子	シクラメン、アジサイ、ユリ、チューリップ、カーネーション(鉢物)	
25回（27年度）	生産局長賞	佐賀	平田　憲市郎 平田　志緒梨	カーネーション（切り花）	
25回（27年度）	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岩手	岩手ふるさと農協園芸部会りんどう専門部 （代表者　鈴木　喜一）	リンドウ（切り花）	
25回（27年度）	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	広島	有田　隆則	パンジー、ビオラ、マリーゴールド、ペチュニア、ニチニチソウ(花壇苗)	
25回（27年度）	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	長崎	お花屋さん百花園有限会社 代表　渡邊　徳昭	キク（切り花）	
24回（26年度）	農林水産大臣賞	岩手	新岩手農業協同組合 八幡平花卉生産部会 （代表者　高村敏彦）	リンドウ（切り花・鉢物）	第54回農林水産祭 天皇杯受賞
24回（26年度）	農林水産大臣賞	埼玉	朝見 良治	ガーデンシクラメン、ポットカーネーション、イベリス、ラナンキュラス、ペラルゴニウム、ポインセチア、ニチニチソウ、クロサンドラ、カラー、プリムラ等（鉢物・苗物）	
24回（26年度）	生産局長賞	愛知	梶　　孝光	コギク(切り花)	
24回（26年度）	生産局長賞	福岡	豊田　　武 豊田 千代子	キク、トルコギキョウ、アスター等(切り花)	
24回（26年度）	生産局長賞	長崎	前田 耕一 前田 綾子	シキミ等（切葉）	
24回（26年度）	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岐阜	島部 勝昌	エラチオールベゴニア(鉢物)	
23回（25年度）	農林水産大臣賞	山形	大築 義雅 大築 実千代	ミニシクラメン、カーネーション、ハボタン、その他花苗（鉢物・苗物）	
23回（25年度）	農林水産大臣賞	埼玉	フカヤスリーエフクラブ （代表者　関和勝宏）	ユリ（切り花）	
23回（25年度）	生産局長賞	岩手	坂戸 明夫 坂戸 チヨ	リンドウ（切り花）	
23回（25年度）	生産局長賞	愛知	荒木 祥充	アンスリウム、フィロデンドロン、アナナス類、カラテア、ヘリコニア，シダ類等（鉢物）	
23回（25年度）	生産局長賞	長崎	吉塚 正弘　吉塚 友子	カーネーション、ガーベラ（切り花）	
23回（25年度）	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岐阜	高橋 明利	ガーベラ（切り花）	
23回（25年度）	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	福井	JAテラル越前キク部会 （代表者　三浦慶昭）	コギク、リンギク（切り花）	
22回（24年度）	農林水産大臣賞	福島	有限会社矢祭園芸 代表金澤 善浩	カーネーション、シクラメン、シュウメイギク、プリムラポリアンサ、プリムラマラコイデス等（鉢物・苗物）	
22回（24年度）	農林水産大臣賞	愛知	株式会社豊楽園 （取締役会長　斎藤豊治） （代表取締役社長　斎藤健治）	フィロデンドロン、フィットニア、プミラ、ワイヤープランツ、シンゴニウム、ペペロミア等（鉢物）	
22回（24年度）	生産局長賞	福岡	花田 哲治 花田 泰子	バラ、ユリ（切り花）	
22回（24年度）	生産局長賞	沖縄	新垣　進	コギク（切り花）	
22回（24年度）	生産局長賞	石川	金沢市砂丘地集出荷場 フラワー部会	ストック、切り花ハボタン、フリージア（切り花）	
22回（24年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	佐賀	坂井 浩一郎	キク（切り花）	
22回（24年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岩手	いわい東農業協同組合 花き部会小菊専門部	コギク（切り花）	
21回（23年度）	農林水産大臣賞	佐賀	小柳 誠五　小柳 一枝	ユリ（切り花）	
21回（23年度）	生産局長賞	神奈川	有限会社五領ケ台ガーデン （代表取締役　窪田敬一）	シクラメン、ニューギニアインパチェンス、ナスタチューム、プリムラジュリアン等（鉢物）	
21回（23年度）	生産局長賞	愛知	稲垣 長太郎	カーネーション（切り花）	
21回（23年度）	生産局長賞	長崎	有限会社金原園芸 （代表取締役　金原由紀男）	キク（切り花）	

回（年度）	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
21回（23年度）	生産局長賞	熊本	坂崎 改輝 坂崎 久子	シュッコンカスミソウ（切り花）	
21回（23年度）	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	吉澤 明弘	シクラメン、ハイビスカス、オステオスペルマム、ビオラ、クリサンセマム等（鉢物）	
21回（23年度）	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	牛島 博文	ガーベラ（切り花）	
21回（23年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	JAひだ花卉出荷組合　菊部会 （代表者　野谷智樹）	キク（切り花）	
20回（22年度）	農林水産大臣賞	埼玉	有限会社横川花園 代表取締役横川保次	ユリ、チューリップ、ギボウシ等（鉢物）	
20回（22年度）	生産局長賞	岐阜	河合　　修	アルストロメリア（切り花）	
20回（22年度）	生産局長賞	福岡	安田　克徳 安田　節子	サカキ、花桃、ニュウサイラン、しめ縄、門松、松竹梅等（花木・枝物類）	
20回（22年度）	生産局長賞	長崎	山口　政則 山口　和代	カーネーション（切り花）	
20回（22年度）	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	伊藤　正規	シンビジウム、コチョウラン、ミルトニア（鉢物洋らん類）	
19回（21年度）	農林水産大臣賞	埼玉	塩原　茂夫	アジサイ、ポインセチア（鉢物）	
19回（21年度）	農林水産大臣賞	大分	有限会社お花屋さんぶんご清川 代表取締役社長　小久保恭一	リンギク（切り花）	第49回農林水産祭 天皇杯受賞
19回（21年度）	生産局長賞	宮城	石巻農業協同組合 花卉部会ガーベラ班	ガーベラ（切り花）	
19回（21年度）	生産局長賞	愛知	櫛田 倉司	リンギク（切り花）	
19回（21年度）	生産局長賞	大阪	梶本 定敏	ユリ、アイリス等（球根切り花）	
18回（20年度）	農林水産大臣賞	愛知	小松　英雄	アンスリーム（鉢物）	
18回（20年度）	農林水産大臣賞	福岡	浜野　重登 浜野　明美	バラ（切り花）	
18回（20年度）	生産局長賞	埼玉	安藤　　貢	アガパンサス等（苗物）	
18回（20年度）	生産局長賞	岐阜	有限会社サンコフ	セントポーリア等（鉢物）	
18回（20年度）	生産局長賞	大阪	稲治　義彦	シャクヤク等（露地花き）	
18回（20年度）	生産局長賞	長崎	柴田　定實 柴田　富子	キク（切り花）	
18回（20年度）	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	石井　克明	バラ（切り花）	
17回（19年度）	農林水産大臣賞	埼玉	黒臼　秀之	コチョウラン（鉢物）	
17回（19年度）	農林水産大臣賞	岐阜	吉田　正博	ガーベラ等（鉢物）	
17回（19年度）	生産局長賞	千葉	平野　圭祐	アンスリウム（切り花）	
17回（19年度）	生産局長賞	神奈川	加藤　　悟	シンビジウム（鉢物）	
17回（19年度）	生産局長賞	愛知	平野　和美 平野　照美	ポインセチア等（鉢物）	
17回（19年度）	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	石橋　正基	カーネーション（切り花）	
16回（18年度）	農林水産大臣賞	千葉	丸朝園芸農業協同組合　花卉部 (部長)飯高　重雄	サンダーソニア等（切り花）	
16回（18年度）	農林水産大臣賞	福岡	空閑　善実 空閑　桂子	パンジー等（苗物）	
16回（18年度）	生産局長賞	鹿児島	サンライズグリーンヒル 観葉生産組合 (代表者　福留　健一）	オーガスタ等（観葉植物）	
16回（18年度）	生産局長賞	愛知	伊藤　勝久	シクラメン等（鉢物）	
16回（18年度）	生産局長賞	長崎	立石　俊一	バラ（切り花）	
16回（18年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	澤瀬　一男 澤瀬　ロシタ	コギク等（切り花）	
16回（18年度）	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	樋口　喜善	パンジー等（苗物）	
16回（18年度）	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	真子　徳幸	キク（切り花）	
15回（17年度）	農林水産大臣賞	埼玉	田島　　嶽	ガーデンシクラメン（苗物）	
15回（17年度）	生産局長賞	群馬	小倉　文雄	シクラメン等（鉢物）	
15回（17年度）	生産局長賞	愛知	内藤　完次	バラ（切り花）	
15回（17年度）	生産局長賞	長崎	JA壱岐市花き部会 (代表者)下條利一	コギク等（切り花）	
15回（17年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	高木　兼雄	スパティヒィラム（鉢物）	
15回（17年度）	(財)日本花普及センター会長賞	沖縄	玉城　昌伸	キク（切り花）	
15回（17年度）	(財)日本花普及センター会長賞	沖縄	蔵下　良彦	キク（切り花）	
14回（16年度）	農林水産大臣賞	東京	八丈島農業振興青年研究会 鉢物部会	フェニックス等（鉢物）	
14回（16年度）	農林水産大臣賞	岐阜	株式会社西垣園芸 西垣　正俊	オステオスペルマム（苗物）	
14回（16年度）	生産局長賞	宮城	株式会社ハニーローズなんごう (代表者)楢山 恒雄	バラ（切り花）	
14回（16年度）	生産局長賞	愛知	株式会社H&Lプランテーション 鵜飼　敏之	パンジー等（苗物）	

14回（16年度）	生産局長賞	福岡	高橋　三千年 高橋　節子	バラ（切り花）	
14回（16年度）	生産局長賞	鹿児島	小村　幸一	パキラ等（観葉植物）	
14回（16年度）	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	神藤　正和	ハボタン等（苗物）	
14回（16年度）	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	谷嵜　隆雄	ハナモモ等（切り枝花木）	
14回（16年度）	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	尾崎　進一郎	シンピジウム（鉢物）	
14回（16年度）	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	松永　宏隆	ユリ（切り花）	
14回（16年度） 13回（15年度）	(財)日本花普及センター会長賞 農林水産大臣賞	長崎 徳島	JA東長崎菊部会 (代表者)松尾 修一 有限会社岸本農園 岸本　昇　岸本ときこ	キク（切り花） ハイビスカス等（鉢物）	
13回（15年度）	農林水産大臣賞	鹿児島	有限会社南原農園 南原　武博	ジャスミン等（切り花）	
13回（15年度）	生産局長賞	岐阜	有限会社白木園芸 白木　和彦　白木ふさ子	レッドロビン等 （洋蘭・観葉植物）	
13回（15年度）	生産局長賞	佐賀	宮崎　憲治	スイトピー等（切り花）	
13回（15年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	JAひだ花卉出荷組合 益田支部（代表者)中川　剛	キク等（切り花）	
13回（15年度）	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	山田　則明	カーネーション等（切り花）	
13回（15年度）	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	緒方　久幸	ガーベラ（切り花）く	
13回（15年度）	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	西海菊出荷組合 (代表者)川内 通良	キク（切り花）	
12回（14年度）	農林水産大臣賞	愛知	石井　義明	アルストロメリア（切り花）	第42回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
12回（14年度）	生産局長賞	埼玉	成澤　勝司	マリーゴールド（苗物）	
12回（14年度）	生産局長賞	鹿児島	柴嵜　喜好	アイビー等（切り花）	
12回（14年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	石川　正樹 石川　結花	ユリ（切り花）	
12回（14年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	川端　芳彦 川端　葉子	ユリ等（切り花）	
12回（14年度）	(財)日本花普及センター会長賞	香川	稲田　良弘	コチョウラン（鉢物）	
12回（14年度）	(財)日本花普及センター会長賞	香川	小西　幸彦	マツ（盆栽）	
12回（14年度）	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	徳永　健史	コチョウラン（切り花・鉢物）	
11回（13年度）	農林水産大臣賞	埼玉	小林　滋幸	カランコエ（（鉢物）	
11回（13年度）	農林水産大臣賞	長崎	JA北高電照菊研究会 (代表者)大谷 虎次	キク（切り花）	
11回（13年度）	生産局長賞	埼玉	田中　勲	シクラメン等（鉢物）	
11回（13年度）	生産局長賞	岐阜	河野　鉄博 河野　常子	ラナンキュラス等（切り花）	
11回（13年度）	生産局長賞	愛知	林　富造 林　房子	シンピジウム（鉢物）	
11回（13年度）	生産局長賞	佐賀	菖蒲　正行	トルコギキョウ等（切り花）	
11回（13年度）	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	中辻　栄治	キク（切り花）	
11回（13年度）	(財)日本花普及センター会長賞	広島	石田　律恵	レースフラワー等（切り花）	
11回（13年度）	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	阿部　雅志	シンピジウム（鉢物）	
11回（13年度）	(財)日本花普及センター会長賞	香川	森　崇	バラ（切り花）	
11回（13年度）	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	高歪　義邦	ユリ等（切り花）	
10回（12年度）	農林水産大臣賞	岐阜	大西　隆	ミニバラ（鉢物）	第40回農林水産祭 天皇杯受賞
10回（12年度）	農林水産大臣賞	鹿児島	沖永良部花き流通センター (代表者)泉　貞吉	テッポユリ等（切り花）	
10回（12年度）	生産局長賞	群馬	林　康夫	シクラメン等（鉢物）	
10回（12年度）	生産局長賞	香川	農事組合法人香花園 (代表者)保坂重雄	カーネーション（切り花）	
10回（12年度）	生産局長賞	大分	有限会社メルヘンローズ (代表者)小畑和敏	バラ（切り花）	
10回（12年度）	生産局長賞	沖縄	玉城　哲弘	キク（切り花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	谷藤　幸子	リンドウ等（切り花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	山梨	農事組合法人 白根フラワーコーポラティブ	インパチェンス等（鉢物）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	伊奈　義就	キク（切り花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	宮脇　孝	キク（切り花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	香川	藤本　傳夫	キク（切り花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	中園　英治	キク（切り花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	江頭　富春	カーネーション等（切り花）	
10回（12年度）	(財)日本花普及センター会長賞	鹿児島	富田　良成	バラ（切り花）	
9回（11年度）	農林水産大臣賞	埼　玉	奥富　良雄	チューリップ等（苗物）	
9回（11年度）	農林水産大臣賞	愛　知	角田　隆幸	ハボタン等（苗物）	第39回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞

9回（11年度）	農産園芸局長賞	宮　城	宮城県南三陸農業協同組合　花き部会	キク（切り花）	
9回（11年度）	農産園芸局長賞	山　梨	渡辺　喜市	サンダーソニア等（切り花）	
9回（11年度）	農産園芸局長賞	滋　賀	小杉　長男	シクラメン等（鉢物）	
9回（11年度）	農産園芸局長賞	沖　縄	大城　清利	キク（切り花）	
9回（11年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岩　手	菅原　武男	リンドウ（切り花）	
9回（11年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	栃　木	田代　正行	カーネーション（切り花）	
9回（11年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	埼　玉	木村　　実	バラ（切り花）	
9回（11年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	長　野	中村　元夫	ディフィニウム等（切り花）	
9回（11年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	奈　良	吉川　公彦	キク等（花苗）	
9回（11年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	徳　島	朝海　常祐	キク（切り花）	
9回（11年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	福　岡	高尾　保徳	ゴールドクレスト等（花木）	
9回（11年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	長　崎	小嶺　敏博	コウチョウラン等（鉢物）	
8回（10年度）	農林水産大臣賞	岐　阜	間宮　敏昭	ハイビスカス等（鉢物）	
8回（10年度）	農林水産大臣賞	福　岡	井上　茂之	トルコギキョウ等（切り花）	
8回（10年度）	農産園芸局長賞	埼　玉	戸谷　武雄	シュッコンアスター（切り花）	
8回（10年度）	農産園芸局長賞	静　岡	服部　一夫	クルクマ等（鉢物）	
8回（10年度）	農産園芸局長賞	京　都	清水　幸雄	ケンガイキク（鉢物）	
8回（10年度）	農産園芸局長賞	長　崎	鹿山　雅勝	カーネーション等（切り花）	
8回（10年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	新　潟	渡邉　和芳	ユリ（切り花）	
8回（10年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	三　重	松尾　廣文	シクラメン等（鉢物）	
8回（10年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	奈　良	吉本　利郎	バラ（切り花）	
7回（9年度）	農林水産大臣賞	宮　城	平間　久義	ハーブ等（苗物）	
7回（9年度）	農林水産大臣賞	静　岡	とぴあ浜松農業協同組合 PCガーベラ販売部会	ガーベラ（切り花）	第37回農林水産祭 天皇杯受賞
7回（9年度）	農産園芸局長賞	青　森	竹ノ原幸悦	カーネーション等（切り花）	
7回（9年度）	農産園芸局長賞	埼　玉	立石　勝義	ポインセチア等（鉢物）	
7回（9年度）	農産園芸局長賞	福　岡	南嶋精二朗	ベゴニア等（苗物）	
7回（9年度）	農産園芸局長賞	長　崎	本田　敏秀	カーネーション等（切り花）	
7回（9年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岐　阜	フローラぎふOKI	カランコエ（鉢物）	
7回（9年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	京　都	月本　雅治	バラ（切り花）	
7回（9年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	兵　庫	中岡　邦康	カーネーション（切り花）	
7回（9年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	大　分	市川　一清	スイトピー等（切り花）	
7回（9年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	沖　縄	渡久山　稔	キク（切り花）	
6回（8年度）	農林水産大臣賞	栃　木	菱沼　軍次	シクラメン等（鉢物）	
6回（8年度）	農林水産大臣賞	静　岡	大庭　孝史	パキラ等（観葉植物）	
6回（8年度）	農産園芸局長賞	埼　玉	新　　博之	カランコエ等（鉢物）	
6回（8年度）	農産園芸局長賞	京　都	寺内　一郎	パンジー等（苗物）	
6回（8年度）	農産園芸局長賞	福　岡	大隈　博幸	バラ等（切り花）	
6回（8年度）	農産園芸局長賞	沖　縄	外間　勝義	キク等（切り花）	
6回（8年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	宮　城	斉藤　達義	シクラメン等（鉢物）	
6回（8年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	群　馬	小嶋　　宏	バラ（切り花）	
6回（8年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岐　阜	安保　幹太	シンピジウム等（鉢物）	
6回（8年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	奈　良	堀田　泰規	プリムラ等（苗物）	
6回（8年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	高　知	広岡　　稔	アイリス等（切り花）	
6回（8年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	高　知	小池　龍善	キク等（切り花）	
5回（7年度）	農林水産大臣賞	岐阜	福田　　誠	セントポーリア等（苗物）	
5回（7年度）	農林水産大臣賞	福岡	波佐間　廣美	ディフェバキア等（観葉植物）	
5回（7年度）	農産園芸局長賞	群馬	萩原　久雄	シクラメン等（鉢物）	
5回（7年度）	農産園芸局長賞	埼玉	千野　純一	インパチェンス等（鉢物）	
5回（7年度）	農産園芸局長賞	大分	飯田花き生産組合 （代表）時松　　謙	バラ等（切り花）	

5回（7年度）	農産園芸局長賞	沖縄	宮平　憲勇	キク（切り花）	
5回（7年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	宮城	手島　　徹	シクラメン等（鉢物）	
5回（7年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	長野	金本　達夫	バラ（切り花）	
5回（7年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	京都	矢野　伸太郎	ストック（切り花）	
5回（7年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	奈良	多田　　護	ベニカナメモチ（植木）	
5回（7年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	佐賀	水田　義雄	キク（切り花）	
4回（6年度）	農林水産大臣賞	宮城	渡辺　　俊	シクラメン等（鉢物）	
4回（6年度）	農林水産大臣賞	埼玉	金子　　正	カラジューム等（鉢物）	
4回（6年度）	農産園芸局長賞	群馬	中山　忠義	洋ラン（切り花・鉢物）	
4回（6年度）	農産園芸局長賞	福岡	和佐野　喜代太	コチョウラン等（鉢物）	
4回（6年度）	農産園芸局長賞	佐賀	中江　広域	キク（切り花）	
4回（6年度）	農産園芸局長賞	大分	志賀　智貴	ユリ（切り花）	
4回（6年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岩手	木村　勇一	プラグ苗等（苗物）	
4回（6年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岐阜	林　　一郎	ポインセチア等（鉢物）	
4回（6年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	奈良	明崎　勝治	ダリア等（切り花・球根生産）	
4回（6年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	長崎	町田　一弘	スイトピー等（切り花）	
4回（6年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	鹿児島	利田　正明	カーネーション等（切り花）	
3回（5年度）	農林水産大臣賞	茨城	鈴木　　隆	ホウズキ等（鉢物）	
3回（5年度）	農林水産大臣賞	沖縄	亀谷　英雄	キク等（切り花）	
3回（5年度）	農産園芸局長賞	秋田	三浦　康之	トルコギキョウ等（切り花）	
3回（5年度）	農産園芸局長賞	群馬	小内　敬一	アジサイ等（鉢物）	
3回（5年度）	農産園芸局長賞	埼玉	矢作　文夫	カトレア等（鉢物）	
3回（5年度）	農産園芸局長賞	高知	山崎　廣美	ユリ等（切り花）	
3回（5年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	京都	森島　衛樹	ハナショウブ等（切り花）	
3回（5年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	奈良	吉川　喜一	シクラメン等（鉢物）	
3回（5年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	広島	沖野　高人	（花木）	
3回（5年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	福岡	田代　恒夫	バラ等（切り花）	
2回（4年度）	農林水産大臣賞	栃木	渡辺　武雄	コチョウラン等（鉢物）	
2回（4年度）	農林水産大臣賞	静岡	渡辺　　偉	クレマチス等（苗物）	
2回（4年度）	農産園芸局長賞	岩手	畠山　正徳	リンドウ等（切り花）	
2回（4年度）	農産園芸局長賞	群馬	大沢　憲一	バラ（切り花）	
2回（4年度）	農産園芸局長賞	東京	浅沼　一治	フェニックス等（鉢物）	
2回（4年度）	農産園芸局長賞	福岡	和佐野勝次	リンドウ等（切り花）	
2回（4年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	埼玉	町田　静吾	バラ（切り花）	
2回（4年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	長野	竹内　栄一	バラ（切り花）	
2回（4年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	京都	今村　喜和	キク等（切り花）	
2回（4年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	奈良	吉村　隆明	インパチェンス等（鉢物）	
2回（4年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	大分	藤原　博文	キク（切り花）	
1回（3年度）	農林水産大臣賞	岩手	猿子　恵久	アルストロメリア等（切り花）	
1回（3年度）	農林水産大臣賞	埼玉	本多　忠夫	シクラメン等（鉢物）	
1回（3年度）	農産園芸局長賞	栃木	菱沼　軍次	シクラメン等（鉢物）	
1回（3年度）	農産園芸局長賞	群馬	阪本　正次	アジサイ等（鉢物）	
1回（3年度）	農産園芸局長賞	長野	筒井　基博	シクラメン等（鉢物）	
1回（3年度）	農産園芸局長賞	岐阜	河本　弘元	バラ（切り花）	
1回（3年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	静岡	岩倉　廣治	（観葉植物）	
1回（3年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	京都	完岡　義清	カキツバタ（切り花）	
1回（3年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	広島	中本　博文	ハボタン等（苗物）	
1回（3年度）	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	大分	時松　　謙	バラ等（切り花）	

（参考資料２）

第２６回花の国づくり共励会
花き技術・経営コンクール実施要領

１．目　的

我が国の園芸の将来を担い、かつ国民生活に潤いと安らぎをもたらすものとして重要な役割を担っている花きについて、生産分野の技術・経営の向上・発展を図ることを目的とする。

２．開催団体

（１）主　催　一般財団法人日本花普及センター
（２）後　援　農林水産省
（３）協　賛　一般社団法人日本花き生産協会
一般社団法人日本花き卸売市場協会
一般社団法人全国農業改良普及支援協会

３．出品資格

露地花きにあっては栽培面積が１ha 以上、施設花きにあっては栽培面積が５０ａ以上の花き生産を主とする農業者等であって、技術・経営に優れ、地域社会に支持と共感を得ているものとする。

４．出品方法

出品は、自薦、他薦を問わず、「花の国づくり共励会－花き技術・経営コンクール応募用紙」に所定の事項を書き込み、それに基づく経営及び活動の記録等の必要な資料を添付して提出する。

５．審査方法

（１）予備審査

一般財団法人日本花普及センターは、自薦、他薦を問わず応募用紙が提出された出品財について、書類審査等により本審査の対象となる出品財を選考する。

（２）本審査

付属資料２の審査委員は、付属資料１の審査基準に基づき書類審査、必要に応じて現地調査を実施して、公正な審査を行う。

６．表　彰

（１）特に優秀と認められた出品財に対して農林水産大臣賞（２点）、優秀と認められた出品財に対して生産局長賞（４点）、一般財団法人日本花普及センター会長賞（数点）をそれぞれ授与する。

（２）農林水産大臣賞出品財は、国の定める「農林水産祭表彰要領」に基づき天皇杯等の選賞資格を有する。

（３）次に掲げる基準のいずれかに該当し、かつ経営主の配偶者の貢献度が高いと認められる場合にあっては、夫婦連名で表彰することができる。

但し、農林水産祭参加行事の農林水産大臣賞並びに生産局長賞に限る。

① 家族経営協定を締結していること。

② 推薦書等において経営主の配偶者の作業分担、従事日数等が概ね５割に達していると確認できること。

③ 農業改良普及センターなどの現場指導組織による意見書が添付されていること。

なお、推薦の段階で夫婦連名であるものについては、一般財団法人日本花普及センター会長賞についてもこれに準ずる。

７．事　務　局

標記コンクールを実施するため、事務局を一般財団法人日本花普及センター内に設置する。

８．開催日程

（１）出品募集期間　　平成２８年８月２５日（木）～１１月３０日（水）

（２）予備審査　　平成２８年１２月

（３）本審査　　平成２９年１月２０日（金）
東実健保会館　６階「談話室」

（４）現地調査　　平成２９年２月８日（水）　　福岡県　曽田　義則
平成２９年２月１３日（月）　愛知県　坂本　和盛

（５）表彰式　　平成２９年３月１５日（水）１３：３０～
学士会館（東京都千代田区神田錦町 3-28）

（付属資料１）

花き技術・経営コンクール審査基準

1　立地条件を活かした合理的、安定的な経営であること
2　経営に計画性と展望をもち、近代化、拡大化の方向をたどっていること
3　消費動向を的確にとらえ、消費者ニーズに応える経営を行っていること
4　栽培技術は、科学的基礎に基づき、その水準が高く優れ、改善意欲が盛んなこと
5　生産基盤の整備、資本整備の投資がかなり行われ、その利用効率が高いこと
6　土地利用及び労働力利用が合理的であること
7　生産性が高く所得が水準以上と認められること
8　労働軽減等により、ゆとりある農業を実現していること
9　環境保全に対する工夫や配慮が見られること
10　国際化対応を考慮した経営がなされていること

（付属資料２）

第26回(平成28年度) 花き技術・経営コンクール審査員名簿

氏　名	所 属 ・ 役 職
腰岡　政二	日本大学　生物資源科学部　教授
土井　元章	京都大学大学院　教授
河野　恵伸	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 食農ビジネス推進センター　食農ビジネス研究チーム長
長村　智司	一般社団法人フラワーソサイエティ　会長
田島　鉄弥	一般社団法人日本花き生産協会　顧問
長岡　　求	株式会社フラワーオークションジャパン　取締役　花の広報室長

第２６回花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール受賞者の業績概要

平成２９年３月発行

編集・発行　一般財団法人日本花普及センター
〒103-0004　東京都中央区東日本橋３－６－１７　山一ビル４階
TEL：０３－３６６４－８７３９　　FAX：０３－３６６４－８７４３
e-mail：jfpc@jfpc.or.jp　　URL：http://www.jfpc.or.jp

いいこと
あった日、
花を買う。

花っていいよね。キャンペーン